

「四季・植物」 3 桔梗

学名 *Platycodon grandiflorum* A. DC.

キキョウ科の多年草

漢名「桔梗」の音読みであるキチキョウ、キッキョウが
キキョウに変化したといわれる

ききょう

郷土資料から見た桔梗のあれこれ

柏崎市大字市野新田と柿崎町大字黒岩を結ぶ、標高366mの峠を桔梗峠という。関東地方を中心に桔梗塚や桔梗ヶ原など「桔梗」のつく地名があるが、これらの場所は古戦場など以前に惨事があった場所であることが多いという。平安時代に桔梗夜叉という女賊がこの峠の辺りに住み、近郷の住民を苦しめていたが、訴えを聞いた征夷大將軍坂上田村麻呂がこれを平定したという伝説がある。

桔梗は秋の七草のひとつだが、山上憶良が万葉集に詠んだ秋の七草は「萩の花 尾花 葛花 なでしこの花 女郎花また藤袴 朝がほの花」で桔梗の名はない。「朝がほ」が、現在の朝顔でなく桔梗だとされている。

また、桔梗は薬草の一種でもあり、「漢方では根を日干しにしたものを晒桔梗と呼び、煎じて気管支炎や扁桃炎などに用い」（「図説花と樹の歳事記」）、正月に飲む屠蘇の材料としても古くから使われている。

「桔梗峠には自生のキキョウがいっぱい咲いていたというが今は全く見当たらない」（「柏崎の植物」）とあり、野生の桔梗は現在絶滅危惧種に指定されている。

参考資料

「草木花歳時記 秋」	朝日新聞社発行	1998	「柏崎の植物」	柏崎市教育委員会	1981
「図説花と樹の大辞典」	植物文化研究会・雅麗編	1996	「柏崎・刈羽の山野草」	柏崎植物友の会編	1986
「薬草」	平野隆久著	2000			